

DCプランナー1級試験対策 C分野 振り返り②

前号に引き続き、今回も2020年01月26日（日）に実施された「第24回 DCプランナー認定試験」を振り返ってみましょう。

今回は【第4問】C分野の《問61》です。

《問61》では、加入時における期待リターンと実績値を比較して、その成果に対して説明を求める出題でした。基本的な問題であり、実務でも常に考える必要がある内容で、良い問題だと思います。

問題文の資料として、投資損益率が与えられていますが、これはダミーです。投資損益率は、加入者個人の個別データではありますが、時間（期間）の影響もキャッシュフローの影響も考慮されていないので、期待リターンと比較して行う加入者の運用状況の評価には適していません。

では、加入者の運用評価を行うための指標は何でしょうか。財産加重収益率です。財産加重収益率を算定するには、投資期間と毎回の投資額、そして評価時点の資産残高が必要です。それらを問題文から抽出すると次のようになります。

期間：10年

毎回の拠出額・投資額：月20,000円 ⇒ 年240,000万円

（問題文の注記に「掛金の拠出は年1回まとめて拠出していたものとする」とあります。）

現在時点の資産残高：2,996,736円

これらの数値を使って、10年間の財産加重収益率を計算します。財産加重収益率を電卓だけで行うのは無理があるので、巻末に掲載されている年金終価係数表を使って算出します。

まず、現在時点の資産残高（2,996,736円）を毎回の拠出額（年240,000万円）で除します。

$$2,996,736 \text{ 円} \div 240,000 \text{ 円} = 12.4864$$

次に巻末の年金終価係数表・期間10年の行を横に見ます。すると、運用利率4%のセルが「12.4864」となっています。つまり、この加入者の財産加重収益率は4%ということになります（実際には、こんなピッタリな数値なることはまずないのですが、これは試験問題ですから）。すなわち、毎年240,000円を4%で10年間運用すると、2,996,736円になるということです。

では、この4%をどのように評価すれば良いのでしょうか。期待リターンが4.1%ですから、その数値よりは下回っています。したがって、「良くない」「悪い」と判定したくなりますが、それは早計です。問題文では、4.1%の期待リターンは4つの投資信託（国内株式・国内債券・外国株式・外国債券）に分散投資することによるものだといえます。このような投資にはリスクが伴います。したがって、投資の状況を判断するにもリスクを考慮しなければなりません。ただ、問題文にはリスクが表示されていませんでした。この点がこの出題のポイントだと思います。リスクが表示されていれば、ほぼ全ての受験者がリスクも考慮して考えたでしょう。しかし、表示されていないがために、「良くない」「悪い」と判定した人もあったのではないのでしょうか。

模範解答とすると、「リスクのある運用として、ほぼ想定通りである」という解答になると思います。単に「良好である」という解答でも正解だと思います。

さて、受験された皆さんの解答はいかがだったのでしょうか。今回は、財産加重収益率が年金集計係数表から「ピッタリ」の数値で導き出すことができました。しかし、現実の世界では、まず、このようにはならないでしょう。ピッタリとはならない場合でも、財産加重収益率を算出できるようにしておきましょう。

今回は以上です。

なお、ここに掲載した内容は、試験問題から解答を導き出すために必要な事項を抽出したもので、本試験問題そのものではありません。本試験問題を入手したい方は、市販の過去試験問題集をご購入ください。新版の発行は、例年11月です。